

山口県でアサザの第二番目の産地見つかる

南 敦

アサザが山口県で一番最初に見つかったのは柳井市余田の堀川で1977年(昭和52年)10月30日であった。堀川は幅約6mでシログワイ・サンカクイ・ヒルムシロ・マコモなどと混生している。川は沼状で水流はわずかである。最近では川床の改修・掃除などでアサザが減少し、絶滅が心配されていたのである。

昨年(1984年)7月~10月、山口県立柳井高等学校で開放講座(生物)が開かれ、筆者が担当したが、そのとき受講者に“近辺の珍しい植物”としてアサザもお見せした。ところが、その後、受講者の一人、私立柳井学園高校教諭、内山由子先生が柳井市黒玄ダム上方の柳井市立水源地にアサザらしいものがあると筆者にお話された。

1985年(昭和60年)3月7日、筆者は内山先生のご案内で柳井市黒杭の柳井市立水源地〔5万分の1地形図：岩国左下〕を見に行った。確かにアサザは水源地の県道の東側の小部分(50m×100m)に半分以上も密生していたのである。ある場所の水面にはどうしてかわからないが、かなり多数のアサザが浮いて集っていた。アサザについてのことやまわりにどんな水草があるかなどは今後暖かくなって調べるつもりである。今回見つかった柳井市立水源地は8年前に見つけた堀川とは約4kmしか離れていないが、非常に多数生育していただけに喜びもひとしお大きかった。

末筆ながらご案内をいただいた内山由子先生に厚く御礼申しあげる。

・参考文献 南敦：柳井市の植物(一) 柳井市郷談会誌第二号(1977)。

山口県でほぼ92年ぶりに見つかった

ヒメコウホネ

南 敦

山口県におけるヒメコウホネの記録は山口市宮野に於いて二階重楼先生が1889年9月23日採集の標本が国立科学博物館に入っているのみであった(岡国夫ほか編・山口県植物誌1972)。ところが、1981年6月、宇部短期大学教授、岡国夫先生が山口市吉田郷の平清水八幡宮のすぐ隣りの東側にある2つの溜池で自生のノハナショウブの調査中に見つけられた。二階重楼先生の発見以来ほぼ92年ぶりである。しかも、この2つの溜池には非常に多数生育している。

なお、“趣味の山野草No.43(1984年2月号) 山草お国自慢43 山口県 写真・文・岡国夫”にヒメコウホネ

の写真と文が載っている。

筆者は1984年10月に山口女子大学名誉教授塩見隆行先生のご案内でその場所に行き、標本を採ることが出来た。現在、栽培もしている。2つの溜池には大群生し、ジュンサイ、クロモなどを混ぜている。秋期ではあったが多数開花していた。この採集した標本で、重要な点を記載すれば次のとおりである。根茎は径10~12mm。葉の裏面中央脈上には短毛が全く見られない(岡国夫先生は下側、筆者は上側の溜池から採集したヒメコウホネを調べた)。葉柄は円柱形で中実である。ヒメコウホネについて他の文献では「葉裏の中央脈上に短毛が密生する」としてあるので、山口市吉田郷のものは“毛なし型”ということになるであろう。

ヒメコウホネについて色々ご教示いただいた岡国夫先生とご案内をいただいた塩見隆行先生に厚く御礼申しあげる。

文献リスト

<1984—(4)>

- 草薙得一・水田多年生雑草の繁殖特性の解明と防除に関する研究. 雑草研究 29: 255—267.
- 高山真幸・菅 洋. 水田多年生雑草ヒルムシロの生理生態学的研究. 第4報 鱗茎の伸長と鱗茎形成の光周反応の種内変異. 雑草研究 29: 278—284.
- ・—————. 同 第5報 除草剤に対する感受性の種内変異. 雑草研究 29: 285—288.
- 帖佐弘至・都甲 潔・山藤 馨. ジャジコモにおける電気的バンド構造. 九大工学集報 57: 813—820.
- 筒井貞雄. ツクシカンガレイの新産地. 福岡の植物 No. 10: 213—216.
- 那須孝悌・松江実千代. 海生単子葉植物アマモ属の花粉形態. 大阪市立自然史博物館研究報告 37: 17—24.
- 原田市太郎. 水草. 北海道の自然 No. 24: 86—91.
- 安井明美・小泉英夫・堤 忠一. ホテイアオイ (*Eichhornia crassipes* Solms) 根部による溶液中の鉛、銅およびカドミウムの吸着(ホテイアオイの根部を用いる溶液中の金属の除去および回収—1—). 日本食品工業学会誌 31: 443—449.
- Ikusima, I. Aquatic macrophytes. in “Lake Biwa”(ed. S. Horie): 303—311, Dr. Junk Publ.

- Kondo, T. The period of circadian rhythm in *Lemna gibba* G3 is influenced by the substitution of Rubidium for Potassium. *Plant Cell Physiol.* 25:1313-1318.
- Kunii, H. Seasonal changes in water quality and surface cover of aquatic plants in Pond Ojaga-ike, Chiba, 1978-1980. *Mem. Fac. Sci., Shimane Univ.*, 18:59 - 68.
- Mori, H. Induction and production of flowers in a short-day duckweed, *Lemna paucicostata* 6746, in diluted Hutners medium in uninterrupted and interrupted darkness. *Plant Cell Physiol.* 25 : 923-928.
- . Effects of ferrous and phosphate ions on flowering in *Lemna paucicostata* 6746 in diluted Hutners medium. *Plant Cell Physiol.* 25 : 929-934.
- Nasu, Y., M. Kugimoto, O. Tanaka & A. Takimoto. Effects of Cadmium and Copper coexisting in the medium on the growth and flowering of *Lemna paucicostata* in relation to their absorption. *Environmental Pollution Ser. A. Ecological & Biological* 33 : 267-274.
- , ——, —— & —— . *Lemna* as an indicator of water pollution and the absorption of heavy metals by *Lemna*. in "Freshwater Biological Monitoring-Advances in Water Pollution Control" (ed. D. Pascol & R. W. Edwards) :113-120, Pergamon Press.
- Ohta, Y. Physiological function of night interruption in *Lemna paucicostata* 6746-Action of light as a phaser on the photoperiodic clock. *Plant Cell Physiol.* 25:323-332.
- Satake, K. & K. Miyasaka. Discovery of bacteria in the cell wall of the aquatic liverwort *Junggermannia vulcanicola* Steph. in an acid stream with pH 4. 2-4. 6. *J. Bryol.* 13:277-280.
- Takaso, T. & F. Bouman. Ovule ontogeny and seed development in *Potamogeton natans* L. (Potamogetonaceae), with a note on the campylotrous ovule. *Acta Bot. Neerland.* 33 : 519-533.
- Tsuchiya, T. & H. Iwaki. Seasonal changes in photosynthesis and primary production of floating-leaved plant, *Trapa natans* L., community in Lake Kasumigaura, Japan. *Jap. J. Ecol.* 34 : 367-374.
- <1985—(1)>
- 大滝末男. 水質汚染から植物を守ろう. 植物と自然 19 (2) : 2-7.
- 小林節子. 印旛沼・手賀沼の汚染と植物. 植物と自然 19 (2) : 13-17.
- 桜井善雄. ソウギョの過密放流で壊滅した水草—長野県・野尻湖の場合. 自然保護 No.273 : 15-17.
- 柴田千晶・小宮定志. 日本歯科大学生物学教室食虫植物 腊葉標本目録. 日本歯科大紀要 No.14:169-201.
- 外山雅寛. 北海道空知郡北村よりウトリクラリア 2 種の新分布記録. 食虫植物研究会誌 36 : 1-2.
- . 北海道江別市よりタヌキモ科植物 3 種を確認. 同上 36 : 2-7.
- . 北海道にムジナモが分布—伝説か真実か? 同上 36 : 45-47.
- . 北海道で観察されたタヌキモ類の天賦—ヒラマキミズマイマイ (淡水産貝類) について. 同上 36 : 47-48.
- 西田雄行. イチョウウキゴケとその教材化. 採集と飼育 47 (1) : 38-40.
- 星 一彰. 尾瀬の水質汚濁と植物. 植物と自然 19 (2) : 18-21.
- 路川宗夫. 筑波研究学園都市の食虫植物—その推移と現状について—食虫植物研究会誌 36 : 11-16.
- 湯浅 明. 水中に生えるシダの話. 採と飼 47(4):162-165.
- 和田基己. 武豊町自生の食虫植物について. 食虫植物研究会誌 36 : 10.
- Fujita, M. The presence of 2 Cd-binding components in the roots of water hyacinth

cultivated in a Cd²⁺-containing medium. *Plant Cell Physiol.* 26: 295-300.

Iijima, T. & T. Sibaoka. Membrane potentials in excitable cells of *Aldrovanda vesiculosa* trap lobes. *Plant Cell Physiol.* 26: 1-14.

Kaiharu, S. & A. Takimoto. Flower-inducing activity of Vitamine-K in *Lemna paucicostata*. *Plant Cell Physiol.* 26:89-98.

Kondo, S. & S. Hamashima. Chironomid midges emerged from aquatic macrophytes in reservoirs. *Jap. J. Limnol.* 46:50-55.

Sasago, A. & T. Sibaoka. Water extrusion in the trap bladders of *Utricularia vulgaris* L. A possible pathway of water across the bladder wall. *Bot. Mag. Tokyo* 98:55-66.

Shimoda, M. Phytosociological studies on the vegetation of irrigation ponds in the Saijo Basin, Hiroshima Prefecture, Japan. *Jour. Sci. Hiroshima Univ. Ser. B. Div. 2 (Botany)* 19:237-297.

抄録 トチカガミ科諸属の分類 (1)

1). C. D. K. Cook & R. Luond. 1982. A revision of the genus *Hydrocharis* (Hydrocharitaceae). *Aquat. Bot.* 14: 177-204.

2). ——— & ——— . 1982. A revision of the genus *Hydrilla* (Hydrocharitaceae). *Aquat. Bot.* 13:485-504.

3). ——— & ——— . 1983. A revision of the genus *Blyxa* (Hydrocharitaceae). *Aquat. Bot.* 15: 1-52.

4). C. D. K. Cook, J.-J. Symoens & K. Urmi-Konig. 1984. A revision of the genus *Ottelia* (Hydrocharitaceae) I. Generic Consideration. *Aquat. Bot.* 18: 263-274.

5). R. M. Lowden. 1982. An approach to the taxonomy of *Vallisneria* L.(Hydrocharitaceae). *Aquat. Bot.* 13: 269-298.

1) トチカガミ属は明瞭に識別される3種が、地理的に隔離されて分布している。我が国に見られるトチカガミ *Hydrocharis dubia* (Blume) Backer は、中東をのぞくアジア地域とオーストラリアの一部に分布するが、

マレー半島、スマトラ、ボルネオには産しないという。

2) クロモ *Hydrilla verticillata* (L. fil) Royle は一属一種とされ、分布、形態、受粉様式、生態などについての従来の知見が整理されている。なお、クロモの種内分化について、染色体数(2X、3X、4X、6Xがある)、アイソザイムパターンなどを利用して解析が進められつつあることを付記しておく。

3) 著者らは世界のスプタ属を9種2変種に整理した。この属の分類で重視されてきた種子の形態には変異が多いとし、花と葉の特徴に重点をおいて大きくまとめている。日本産のものに限ると、スプタがマルミスプタの変種 *Blyxa aubertii* L. C. Richard var. *echinosperma* (C. B. Clarke) Cook & Lüönd, comb. nov. として扱われ、ミカワスプタ *B. leiosperma* Koidzumi はヤナギスプタ *B. japonica* Maxim. の茎の発達の悪い一型として、そのシノニムにおとされている。最近愛知県で発見されたセトヤナギスプタは、ヤナギスプタの変種 *B. japonica* var. *alternifolia* (Miq.) Cook & Lüönd, comb. nov. とされている。(この項は、植物分類地理 35:148の再録)

4) ミズオオバコ属の特徴の整理と、検索表がまとめられている。世界に21種認められるとしているが、詳細な種属誌は続報にゆずられている。

5) 世界じゅうのセキショウモ属を次のようにまとめている (()内は日本の該当種)。

- Vallisneria spiralis* L. var. *spiralis*
- V. *spiralis* L. var. *denseserrulata* Makino (コウガイモ)
- V. *americana* Michaux var. *americana* (セキショウモ、ヒラモ)
- V. *americana* Michaux var. *biwaensis* (Miki) Lowden, comb. nov. (ネジレモ)

雌花における雌ずいと仮雄ずいのゆ合あるいは分離の状態と、雄花における花糸のゆ合状態および雄ずい群基部の毛の有無だけを有効な分類形質と認め、他の形質はほとんど考慮せずに導かれた結論である。この分類に従うと、日本のセキショウモはアメリカの *V. americana* と同種であり、琵琶湖水系の固有種とされてきたネジレモが中南米に広く分布するということになる。この論文は、タイトルから察して一つの試論としてまとめられたものだろうが、いかにも荒削りで、基本的に再検討する必要がある。

水草には広い分布域をもつ種が多いため、その分類には広い地域から材料を集めて比較検討することが、とりわけ重要である。その意味で、今回紹介したような世界レベルの研究が開始されたことは、たいへん喜ばしいこと